

中和地区3市1町障害者自立支援協議会
平成30年度 第2回運営委員会 議事録

開催日時：平成30年6月19日（火）10：00～12：00

開催場所：葛城市福祉総合ステーション（ゆうあいステーション） 2階会議室

出席者：葛城市（田中氏）香芝市（渡邊氏）大和高田市（山本氏、金森氏）広陵町（佐々木氏）
圏域Mg（木村氏）ブリッジ（石井氏）青垣園（堀氏）なつつ（西口氏）shake（吉岡氏）
どんぐり（小田氏）香芝社協（松田氏）葛城育成会（村山氏）ふわら（秋本氏）
明日香養護（三宅氏）大淀養護（山本氏）西和養護（横澤氏）葛城社協（高橋氏、池氏）
もちつもたれつ（大竹氏、田中氏）まんだらトポス（林、福井・記録） 順不同

配布資料：次第、前回議事録、3市1町基本情報調査・地域生活支援事業の比較様式、
就業・生活支援センターブリッジ紹介、特定非営利活動法人ひなた紹介

1、開会

2、議事

○地域生活拠点事業等の整備に向けて、地域資源確認のため各参加機関の紹介及び部会紹介

以下、機関・部会名及び紹介者（発表順）

- | | | |
|-------------------|-----------|------|
| ① 社会福祉法人青垣園 | … 青垣園 | 堀 氏 |
| ② 大和高田市部会 | … 青垣園 | 堀 氏 |
| ③ 就業・生活支援センターブリッジ | … ブリッジ | 石井 氏 |
| ④ NPO 法人ひなた | … ふわら | 秋本 氏 |
| ⑤ 明日香養護学校 | … 明日香養護学校 | 三宅 氏 |

※次回は大淀養護学校、西和養護学校、各市町から基本情報、概況、社会資源の紹介をして頂く
予定

○今年度目標について

今年度の目標を定めていけたらと考えている。地域資源の確認を現在行っているところではあるが、それらをどのようにつなぎ、どう活用するか。先駆的な活動しているところを見せて頂く等の方法はあると思うが、今年度このようにすれば等の意見・提案あればお聞きしたい。

広陵町佐々木氏：3市1町の地域性の違いはあれども、基本的には環境より「人、人材」ではないかと思う。やってみようと思う人がいることが一番。そういった人を発掘し、育て、サポートできる方法を考えてみても良いのでは。

会長：実際どうすればよいか。気づいてもらうには。

ふわら秋本氏：成人の福祉は各機関のつながりを感じるが、児童になるとなかなかつながっていない。こどもプロジェクトも、小学校教員や療育を担う事業所が参加できるように間口を広げては

どうか。

会長：子どもプロジェクトについては、現状、委託の相談支援事業所に参加していただいている。事業所等が参加できる場の新設を考えても良いのかもしれない。

色々な人材がやる気を出してもらえるような、“つながり”を持てる場を検討できれば良いと思うが、地域で包括的な支援を考えたときに、他に何が必要か。

どんぐり小田氏：人材を育てることは大切になってくる。自立支援協議会も横のつながりを持てる場になっても良いのでは。様々な情報共有にもなる。大阪府の中ではサポートブック、つながるファイルという形で学校、事業所、家族等のすべてが一冊の本で連携できるようにしようと取り組んでいる。関係機関同士がつながっているとわかれば、家族も安心する。

人材育成においては、一人の人を育成する時も、事業所だけでなく、横のつながりがあるから継続できるという考えもある。そういう場があることが、人材育成にもつながっていくと思う。

会長：サポートブック、つながるファイル等で学校、地域、家庭がつながっているということだが、学校の立場としてはどうか。

明日香養護三宅氏：サポートブック等があると、本人、保護者が何度も話したり、書いたりしないでいいので良いと思う。

就・石井氏：就・としては、アセスメントする時に事前の資料のような物があるとありがたい。養護学校からの情報には学校での様子等はあるが、生育歴なども含まれてあれば、より円滑に行える。

shake 吉岡氏：サポートブック等があると楽にはなると思う。しかし情報が事実かどうかの確認は必要。関わる人の見方によって、事実が違っているケースや考え方がずれているケースもある。以前と現在では思っていることの誤差があったりするので、その時々で軌道修正は必要であると思う。

情報がない状態からは楽だが、確認は必要。基本的に事前の情報があることはなかなかないので、アセスメントには時間を費やす。しかし、費やすことで関係性が構築できるというプラス面もある。あるから良かった、ないからダメというよりは、プラス方向に考えていった方が良いのかなと思っている。情報があると確認はし易いが、引き継いでいけるかが非常に難しい。

会長：キーワードとして、「つながる」「つなぐ」「どうつないでいくか」という言葉が出た。既存のつながりを次にどう繋いでいくか、に重点を置いていってはどうかと感じた。担当者が変わっていく中でもつないでいける仕組みづくりが求められていると思う。

以上からも、今年度のキーワード、目標は「つながる」と「つなぐ」とする。

○ホームページについて

・葛城社協にて管理担当を引き継いでいただけることとなったが、どうすればホームページを活用できるかを検討しているが、まずは自分たち（各参加機関）がホームページを活用し、協議会についての再確認するために、要綱、機関紹介、組織図、議事録の掲載を検討している。後からの参加者にも、これまでの経過が理解できるというメリットがある。

整備に時間がかかると思うが、みなさんからも意見を頂ければと思う。

○地域移行プロジェクトについて

何を目指し取り組んでいくのか等の目的の確認、参加する機関について検討できればと思うが。

なつつ西口氏（PJリーダー）：今年度は6/26（火）第1回目会議を実施予定。引継も兼ねて、担当市である香芝市と事前の打ち合わせを実施。今年度は「これをする」という目標を立てて取り組んでいこうとの話になった。精神科病院への見学や、病院への実際の成功例の紹介等を行えればと考えている。

前年度は秋津鴻池病院をお呼びしたが、3市1町内にある当麻病院や他病院への声かけも検討している。保健所の相談員にも参加して頂いており、アドバイスも聞きながら、検討していく。

3市1町内の精神障害者を対象とした事業所であるまんだらトポスの参加依頼も、今年度、検討していければと考えている。

香芝市渡邊氏：先進的な取り組みを行っている事業所などにご指導いただきながら取り組んでいければと考えている。

3、各部会の年間計画について

就労支援部会 … 6/26（火）第1回目を実施予定。次回について当該会議にて決定する予定。

大和高田市部会… 既に第3回を終了。今年度は毎月第2金曜日の実施を予定。

こどもプロジェクト…7/11（水）第1回目を実施予定。年4回の実施を予定。

地域移行プロジェクト…6/26（火）第1回目を実施予定。

4、その他

○圏域弁護士の荒木弁護士について

法律問題等で疑問があれば協議会への参加依頼も可能。先生から講義頂くこともできる。

○「障害者」という呼称について

圏域Mg木村氏：奈良県に確認したところ、県としては「障害のある人」で統一している。“持つ”は持ってしまったというイメージがあるが、本人が持っているのではなく、社会に障害が“ある”という表現の方が適しているのではないかと考えている、と回答を得ている。

また、「害」という漢字に関しても同様に、周りの環境に“害”があるという考え方で、“害”を使用している。

※以下、意見。

・養護学校では、パンフレット作製時などは「障害のある人」としているが、職員間ではそこまで浸透していない。害の字も漢字表記を使用している。学校間でのばらつきもあると思う。

・法律の変更を待つしか仕方がないかを感じている。

・当事者団体に意見を求めたことがあるが、それほど意識されてはいなかった。法律等の固有名詞では“障害”と漢字表記としているが、それ以外はひらがなとしている。

・意識して使い分けてはいない。問題はそこではなくて、社会、環境を変えることではないかと思う。

・できる限り使いたくないと思い、使い分けている。なぜそうしているかも説明するようにしている。当事者がどう思っているか、支援者だけで考えているようにならないようにしないといけない

と思っている。

- ・基準は設けていなので、表記が混在する資料もある。混乱を防ぐためにも、ある程度の表記の基準を、国または県で決めていただければありがたい。
- ・母親の方々は、療育手帳を取得した時点で障害児になると考えているようで、取得に抵抗がある。“害”という言葉に抵抗があると感じる。できるだけひらがなを使用するか、支援の必要な人という書き方に変えていった方が良いと思う。現在、関わっている方々は「自分達は困ってないので障害者じゃない」と話されている。
- ・1～2歳の児童の支援も行っている。ご家族の方が障害ということを受け入れることができていない場合もあるので、できるだけ障害という言葉を使わないようにしている。“害”の表記もひらがなの方が柔らかい表現のような感じがする。
- ・法規定の物は“害”と表記している。学校から発信する書類などはひらがなとなっている。
- ・大阪府は全てひらがな表記となっている。当事者の方々はそんなに気にしていない。周りの方が気にしているように思う。面談時は障害という言葉を使わず、“やりづらい”等の別の表現をするようにしている。
- ・当事者自身から「自分は障害者なのか」と問われ、本人に受容してもらうときに、どう答えるか悩む。障害という言葉自体がどうなのか、ということのポイントにしたほうが良いのでは。
- ・障害福祉計画の作成時に、「法的な表現であってもひらがなで表記させていただきます」という注釈を入れた。申請書や公文書等の正式なものは漢字表記なのでジレンマがある。また、それぞれの使い分け、表現のブレもあると思う。
- ・自身も当事者家族だが、障害という言葉を意識しなくなった。家族さんとは「一言で言えて楽だよ、楽な言葉だよ」と言っている。その人、その時で感じ方は違うと思う。
- ・表記の変換などの取り組みを行えない所が、配慮が足りないとならないか心配。
- ・県から統一して示されれば、支援者もありがたい。
- ・言葉よりも他の部分を検討するほうが大事なのでは。
- ・受け止め方は人によると思うが、言葉が決まっていれば受け入れやすいのではないかと思う。
- ・関わっている方は障害を“持っている”のではなく、障害が“ある”人というふうに呼んでもらいたいと話されている。

○大阪北部地震を受けて

地震による課題などが出た事業所は、次回の運営委員会で伝えて頂きたい。協力できることなどを検討していきたい。

5、閉会

○次回予定

日時：平成30年8月21日（火） 10：00～

場所：葛城市福祉総合ステーション（ゆうあいステーション） 2階会議室